

基本政策	政策	施策	事務事業（○は計画本体に掲載している主な事務事業） ※○以外については、「施策を推進する経常的な事務事業一覧」に取組等を掲載
<b>基本政策 4 活力と魅力あふれる力強い都市づくり</b>			
<b>政策 4-9 戦略的なシティプロモーション</b>			
<b>施策 4-9-1 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成</b>			
○ シティプロモーション推進事業			
○ 国際交流推進事業			
国際施策推進事業			
交流推進事業			
○ 国際交流センター管理運営事業			
○ 市民文化大使事業			
<b>施策 4-9-2 川崎の特性を活かした観光の振興</b>			
○ 観光振興事業			
○ 産業観光推進事業			
○ 市制記念花火大会事業			
○ 競輪場整備事業			
○ 競輪等開催・運営事業			

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	40901010	シティプロモーション推進事業				有						
担当	組織コード	所属名										
	170700	総務企画局シティプロモーション推進室										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)											
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン,まち・ひと・しごと創生総合戦略,情報化推進プラン,文化芸術振興計画,シティプロモーション戦略プラン,新・かわさき観光振興プラン											
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
	取組1(3)市民との積極的な情報共有の推進			1 効果的な情報発信の取組推進								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	32,788	29,585	32,788	31,812	32,788		32,788			
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
		市債	0	—	0	0	0		0		0	
		その他特財	290	—	290	840	290		290		290	
		一般財源	32,498	—	32,498	30,972	32,498		32,498		32,498	
	人件費※ B	45,738	45,738	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	78,526	75,323	32,788	31,812	0	32,788	0	0	32,788	0		
人工(単位:人)	5.4											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、海外を含む市外の方	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	戦略的な情報発信等により、市民のシビックプライドの醸成及び対外的な都市イメージの向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市の多様な魅力をさまざまなメディアやブランドメッセージを効果的に活用し、市内外、更には海外に情報発信します。民間活力を活かした地域資源の発掘や新たな魅力作り、連携等により、川崎の魅力をより高め、市民のシビックプライドを醸成します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「シティプロモーション戦略プラン」に基づく取組の推進 ・「第2次シティプロモーション推進実施計画」に基づく取組の推進 ・情報発信の強化 ・各局のプロモーション支援 ②国内外に向けた、各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進 ・SNS、動画等を活用した魅力発信 ・PR委託業者等を通じた国内外への情報発信 ③ブランドメッセージ等を活用した効果的な情報発信及び民間活力と連携したPR事業の推進 ・スポーツパートナー等やパラムーブメントの取組との連携 ④都市ブランド推進事業の推進(7事業程度)	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①「シティプロモーション戦略プラン第2次推進実施計画」に基づく取組を着実に進めるとともに、市の施策や取組、魅力等を市内外に発信するため、PR委託事業者との連携により、さまざまな広報媒体を活用してリリース資料の作成・配信を行うなど、市内外への情報発信を強化し、効果的・効率的な広報活動を展開しました。また、カワサキハロウィンや国際環境技術展等を中心に担当部署と連携を密に行い、効果的なプロモーションにつながるよう助言・支援しました。 ②国内外に向けた、各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進については、TwitterなどのSNSを活用し、情報発信を行うとともに、PR委託業者を活用し、本市の魅力発信を行いました。 ③ブランドメッセージについて、民間事業者等との協働により以下の取組を実施しました。 市民98人の推薦図書を7区の図書館や市内の書店と連携し、展示するブックフェア、市内ヒップホップダンスチームとの連携によるポスター制作・掲出、スポーツパートナー(川崎フロンターレ、富士通フロンティアーズ)とコラボしたブランドメッセージフォトブースの展示及びSNSでの発信や市内各イベント(市民まつり、区民祭、備えるフェスタ等)への出展によるPRを行いました。また、パラムーブメントのさまざまな取組とも連携し、PRを行いました。 ④都市ブランド推進事業について、13件の応募の中から総合的に評価し、選定した5事業の実施支援、効果的な発信を行いました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値 説明 都市イメージ調査において「愛着」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	目標	6.2	6.3	6.4	6.5	点
		実績	5.4	—	—	—	
2 成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「誇り」に関する平均値 説明 都市イメージ調査において「誇り」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	目標	5.2	5.3	5.4	5.5	点
		実績	4.8	—	—	—	
3 成果指標	隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合 説明 都市イメージ調査において、「川崎市のイメージについて、どのように思いますか」という質問に対して、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、隣接都市居住者のうち6点~10点を選んだ割合	目標	51.5	52.0	52.5	53.0	%
		実績	41.5	—	—	—	

## 評価 (Check)

**事業を取り巻く社会環境の変化**  
(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)

総務省の平成29年版情報通信白書によると、国内におけるSNS利用率は、平成24年の41.4%から平成28年には71.2%に上昇しており、SNSを含む多様な情報媒体を活用した効果的な情報発信への対応が求められています。

**事業の見直し・改善内容**

実施 (直近) H 30 年度  未実施

具体的な見直し・改善内容  
※過去に見直した履歴も記載  
できる場合は記載

平成30年度:都市イメージ調査の結果について各区との意見交換会を実施し、シティプロモーション推進事業について共通認識を図るとともに、区におけるプロモーション支援を行うなど、連携強化を図りました。また、庁内における広報活動の課題等を踏まえた研修を実施し、職員の広報力強化を図りました。  
平成29年度:都市ブランド推進事業において、ブランドメッセージの積極的な使用を定めるなど、要綱を改定しました。また、SNSを活用した市の魅力発信を職員が曜日ごとに担当する形に改め、多様な観点からの情報発信を実施しました。  
平成28年度:関連部署の連携を強化し、各職位毎に必要な研修、効果的な時期等を検証し、研修の体系化を行いました。メディアコーディネーターを活用した研修や各事業の企画段階からの積極的な支援を行い、パブリシティ獲得に努めました。また、民間活力を生かしたイメージアップ事業を都市ブランド推進事業と改め、シティプロモーション戦略プランの目標であるシビックプライドの醸成を目的の一つとして定めたほか、テーマを設けるなど、都市ブランド強化に向けた制度改正を行いました。

### 評価項目

### 評価

必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	市の魅力を発信するTwitterアカウントのフォロワー数は増加しており、市の情報を得たいと考える人のニーズは依然として高いものと考えます。また、今後は市の施策・取組等の情報発信力の更なる強化が必要であり、各部署と連携し、多様な手法を活用した効果的な情報発信を行うことで、都市イメージの向上及びシビックプライドの醸成を図っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	ブランドメッセージの認知度は上がっているものの、シビックプライド等の成果指標向上まではつなげていないことから、「愛着」「誇り」の数値向上のため、都市イメージ調査のクロス集計をはじめ、より詳細な分析を行い、効果的な施策を実施していく必要があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	ブランドメッセージについては、認知度を高める事業手法など、新たな取組を視野に入れながら進めています。職員の広報力向上を目指し、新たなテーマによる研修等を実施しました。	

**施策への  
貢献度**

### 貢献度区分

- A. 貢献している
- B. やや貢献している
- C. 貢献の度合いが薄い

**B**

### 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由

現状、事業の効果としては成果指標に現れず、いずれも目標達成には至っていませんが、さまざまなメディアを効果的に活用し、本市の多様な魅力を市内外に情報発信するなどの取組を進めてきました。都市イメージの向上やシビックプライドの醸成に向けて、今後も引き続き積極的なプロモーション活動を行うとともに、中長期的な視点で新たな手法などを考えていく必要があります。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

<b>事務事業</b>	事務事業コード 40901020	事務事業名 国際交流推進事業				政策体系別計画の記載 有						
<b>担当</b>	組織コード 171100	所属名 総務企画局総務部庶務課										
<b>実施期間</b>	事業開始年度 —	事業終了年度 —	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等) イベント等	分類2(内部事務) —							
<b>実施形態</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
<b>実施根拠</b>	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)											
<b>総合計画と連携する計画等</b>	国際施策推進プラン, まち・ひと・しごと創生総合戦略, 文化芸術振興計画											
<b>行財政改革第2期プログラムに関連する課題名</b>	改革項目		課題名									
<b>予決算</b> (単位: 千円)	<b>年度</b>	<b>H30年度</b>		<b>R1年度</b>		<b>R2年度</b>		<b>R3年度</b>				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	<b>事業費 A</b>	38,536	32,089	44,539	42,239		41,938			44,539		
	<b>財源内訳</b>											
	国庫支出金	0	-	0	0		0			0		
	市債	0	-	0	0		0			0		
	その他特財	19,476	-	19,476	19,465		19,476			19,476		
	一般財源	19,060	-	25,063	22,774		22,462			25,063		
<b>人件費* B</b>	18,719	18,719	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<b>総コスト(A+B)</b>	57,255	50,808	44,539	42,239	0	41,938	0	0	44,539	0	0	
<b>人工(単位: 人)</b>	2.21											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

<b>政策体系</b>	<b>政策</b>	戦略的なシティプロモーション
	<b>施策</b>	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	<b>直接目標</b>	市内外における市の認知度・好感度を高める
<b>事業の対象</b> (事業の対象となる人、物)	市民、企業、姉妹・友好都市をはじめとする海外都市	
<b>事業の目的</b> (対象をどのような状態にしたいか)	海外都市が持つ特性を活用し、お互いのメリットを明らかにした互恵関係が構築できる交流事業を実施するとともに、地域における国際交流を推進します。	
<b>事業の内容</b> (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	姉妹友好都市提携から周年記念を迎える時期を捉えて、今後どのような分野で交流をより進めていくか確認書などで明らかにしています。	
<b>当該年度の取組内容</b> (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①海外からの視察受入や(公財)国際交流協会と連携した国際交流の推進 ・オーストラリア・ウーロンゴン市姉妹都市提携30周年記念事業	

## 実施結果 (Do)

<b>上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度</b>	<b>3</b>	1. 目標を大きく上回って達成    4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成    5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
<b>取組内容の実績等</b> (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等より具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①ウーロンゴン市との周年記念事業については、7月に本市代表団をウーロンゴン市に派遣しました。また、10月にはウーロンゴン市長の受入とともに、市民文化局が実施する記念コンサートと連携して同市長や市民の招待を行い、効果的に事業を実施しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	説明	目標					
		実績					
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	本市における外国人住民人口は4万人に迫り、また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、外国人観光客等の本市を訪れる外国人の増加が見込まれることから、これまで以上に本市の国際化の取組を進めていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 30 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H30年度: 韓国富川市との職員相互派遣について実施方法を見直し、約1年間の派遣(1名が参加)としていたものを、研修分野を特定した短期派遣(複数名が参加)とすることしました。 H25年度: 韓国富川市との職員相互派遣について、派遣及び受入を毎年実施していたものを、経費や効果の点から、「職員相互派遣協定」を見直し、隔年ごとに実施することになりました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を直前に控え、今後、更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、本市が進める国際施策の推進には市民、市民団体等を含めた市全体での取組が必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	姉妹・友好都市等との継続的な交流により、地域における国際交流が推進されました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	交流事業については、相手方との調整により事業内容やスキームが決定するため、引き続き事業手法等について十分な検討を行いながら、効果的・効率的な事業推進を図っていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	今年度のオーストラリア・ウーロンゴン市との姉妹都市提携30周年記念事業においては、両首長による相互訪問に加えて、(公財)国際交流協会主催の市民交流団の派遣やウーロンゴン大学川崎研修生の受入れなどの機会を捉えて本市のPRを行うことにより、一定程度の都市イメージの向上への貢献がありました。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 引き続き、お互いの都市が持つ特性を活用し、それぞれのメリットを明らかにした互恵関係が構築できる交流事業を実施することにより、地域における国際交流を推進していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載				
	40901030	国際施策推進事業				無				
担当	組織コード	所属名								
	171100	総務企画局総務部庶務課								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	平成28年度	令和7年度	その他		政策推進計画等(策定・進行管理)					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン									
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	227	0	227	227		227		227	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	0	0		0	
		市債	0	-	0	0	0		0	
		その他特財	0	-	0	0	0		0	
		一般財源	227	-	227	227	227		227	
	人件費 <sup>*</sup> B	2,880	2,880	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	3,107	2,880	227	227	0	227	0	0		
人工(単位:人)	0.34									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業、職員	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	国際施策推進プランの的確な推進を図り、真のグローバル都市川崎をめざします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市国際施策推進委員会を運営し、プランの進捗管理を実施します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「国際施策推進プラン」に基づく取組の推進	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等より具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①国際施策推進プランについては、国際施策推進委員会を1回開催し、庁内の情報共有と国際施策の推進及び進捗管理を行いました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 活動指標	川崎市国際施策推進委員会の開催件数	目標	1	1	1	2	回
	説明 プランの進捗管理を行う川崎市国際施策推進委員会の開催件数	実績	1	-	-	-	
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	訪日外国人旅行者の増加や国際的な都市間競争の激化、外国人市民の増加と多様化など、グローバル化に伴う新たな課題への取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 多文化共生分野も含めた総合的な国際施策を推進するため「川崎市国際施策推進プラン」を策定しました。 H24年度: 庁内各局で個別に行われている国際関連事業を全庁的な観点に立って整合性を図りながら効果的に実施していくため、「国際施策展開の基本的な考え方」(庁内向け・国際展開分野のみ)を作成しました。 H23年度: 庁内の国際関連事業を所管する課で情報共有等を行う「川崎市国際施策調整会議」を設置・開催しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を直前に控え、今後、更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、課題解決に向けては、市民や市民団体を含め、本市全体で取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	国際施策推進プランを適正に進捗管理することにより、本市国際施策が総合的に推進されました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	本市国際施策の着実な推進にあたっては、民間事業者等に委託することなく、行政自らが進捗管理を行う必要があります。今後とも、国際施策推進委員会・同幹事会を通じて、国際施策の庁内調整・情報共有を行い、効果的・効率的な事業推進を図っていきます。なお、必要に応じて、幹事会の書面開催や資料のペーパーレス化を行うなど、事務改善を図ります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	国際施策を総合的に推進することにより、海外を含む市内外へ本市の多様な魅力や強みなどをアピールするなど、一定程度の施策への貢献はありました。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

<b>事務事業</b>	事務事業コード 40901040	事務事業名 交流推進事業				政策体系別計画の記載 無				
<b>担当</b>	組織コード 251000	所属名 市民文化局市民生活部(交流推進担当)								
<b>実施期間</b>	事業開始年度 —	事業終了年度 —	事務・サービスの分類 —	分類1(市民サービス等) イベント等	分類2(内部事務) —					
<b>実施形態</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
<b>実施根拠</b>	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)									
<b>総合計画と連携する計画等</b>	文化芸術振興計画									
<b>行財政改革第2期プログラムに関連する課題名</b>	改革項目		課題名							
<b>予決算</b> (単位:千円)	<b>年度</b>	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	<b>事業費 A</b>	27,920	26,607	27,920	27,783		27,920		27,920	
	<b>財源内訳</b>	国庫支出金	0	—	0	0		0		0
		市債	0	—	0	0		0		0
		その他特財	1,478	—	1,478	1,342		1,478		1,478
		一般財源	26,442	—	26,442	26,441		26,442		26,442
	<b>人件費<sup>*</sup> B</b>	4,659	4,659	0	0	0	0	0	0	0
<b>総コスト(A+B)</b>	32,579	31,266	27,920	27,783	0	27,920	0	27,920	0	
<b>人工(単位:人)</b>	0.55									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

<b>政策体系</b>	<b>政策</b> 戦略的なシティプロモーション <b>施策</b> 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 <b>直接目標</b> 市内外における市の認知度・好感度を高める	
<b>事業の対象</b> (事業の対象となる人、物)	本市及び友好自治体の市民	
<b>事業の目的</b> (対象をどのような状態にしたいか)	本市と友好自治体の関係にある都市との交流を深め、本市の都市イメージの向上を図ります。	
<b>事業の内容</b> (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市と国内友好自治体の次代を担う子どもたちが一堂に会する場を提供し、相互理解と親善を深めます。	
<b>当該年度の取組内容</b> (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①友好自治体交流会の実施	

## 実施結果 (Do)

<b>上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度</b>	<b>3</b>	1. 目標を大きく上回って達成    4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成    5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
<b>取組内容の実績等</b> (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等より具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①本市の魅力PRできる施設見学や参加児童の交流を盛り込んだ友好自治体交流会を8月に実施しました。友好自治体及び本市の子ども36名が参加し、相互理解と友好親善を深めることができました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	説明	目標					
		実績					
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					



## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	交流事業の実施にあたっては、各自治体の厳しい財政状況のもと、その事業の効果が具体的にみえることが求められてきています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度、友好自治体の子どもの交流事業実施において、参加した子どもの送迎方法について効率化を図るなど事業の実施方法を見直し、経費を節減しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	友好自治体と連携した交流会を実施し、参加した子ども同士での交流プログラムや市内施設見学等を行うことで、本市のイメージアップにつながる事業であり、継続的に実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	次世代を担う子どもたちに本市を知ってもらうことでイメージアップを図る事業であり、参加者のアンケートや参加自治体職員からも事業継続の要望があげられています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	友好自治体交流会については、事業内容の委託化は可能ですが、大幅なコスト増が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	次世代を担う子どもが参加し交流を行うことで、自分のまちや他のまちについて知り、友好親善を深めるとともに、かわさきエコ暮らし未来館や巡視船による川崎港の見学などにより、本市のイメージアップを図ることができました。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	40901050	国際交流センター管理運営事業				有						
担当	組織コード	所属名										
	251000	市民文化局市民生活部(交流推進担当)										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	施設の管理・運営	—								
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市国際交流センター条例											
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン,人権施策推進基本計画											
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
	取組1(1)多様な主体が共に担うまちづくりの推進			5 国際交流センターを活用したグローバル人材の育成支援								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	167,570	165,403	169,570	169,349	169,570		169,570			
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0			
		市債	0	—	1,000	0	1,000		1,000			
		その他特財	5,217	—	5,217	5,272	5,217		5,217			
		一般財源	162,353	—	163,353	164,077	163,353		163,353			
	人件費* B	16,093	16,093	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	183,663	181,496	169,570	169,349	0	169,570	0	0	169,570	0	0	
人工(単位:人)	1.9											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、市民で構成される団体、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本施設を拠点として、市民が国際理解を深め、市民文化の向上や国際親善の発展に寄与する社会の形成を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者制度による運営のもと、国際理解を深める講座や国際交流を推し進める事業等を開催するとともに、国際交流に取り組む市民団体等への支援や施設の貸出を行います。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①国際相互理解を進めるための講座の充実及び質の高い日本語、外国語等の研修の実施 ②国際交流に取り組む市民、団体等の主体的な国際活動を促す情報提供等 ③外国人窓口相談事業の実施	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等より具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①外国語による国際理解講座、多文化映画会など、内容を工夫し、国際理解のための各種イベント・講座を実施しました。国際理解講座受講者数については、全般的にはほぼ定員に近い受講がありました。メキシコをテーマとしたグローバルセミナーで定員に達することができませんでした。また、日本語講座受講者数については、入門クラスに需要が偏る現象が見られる等、状況の変化も影響し、受講者数の目標達成ができませんでした。 ②国際交流に取り組む市民、団体等の活動を支援しました。また、活動団体と連携し、国際交流センターを活用した、外国につながる子どもの学習支援等に取り組みました。 ③6言語による外国人生活相談等、外国人市民の生活、コミュニケーション支援を行いました。外国人窓口相談件数において、増加を続ける外国人市民人口数に対し、周知が行き渡っていないこと等から目標を達成できませんでした。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 活動指標	国際交流を促進する講座・イベントの開催数	目標	55	55	55	55	回
	説明 国際相互理解を進めるための各種講座の実施回数	実績	62	—	—	—	
2 成果指標	国際理解講座受講者数	目標	500	510	520	530	名
	説明 地域における国際化の担い手としての市民の国際理解の増進のための講座受講者数	実績	411	—	—	—	
3 成果指標	日本語講座受講者数	目標	480	500	520	540	名
	説明 外国人市民のコミュニケーション支援としての日本語講座受講者数	実績	467	—	—	—	
4 成果指標	外国人窓口相談件数	目標	1,740	1,760	1,780	1,800	件
	説明 外国人市民への生活支援としての外国人窓口相談件数	実績	1,558	—	—	—	

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	国際交流センターは築20年以上が経過していることから、ハード面において、市の施設長寿命化の方針に沿って施設・設備の機能回復を計画的に進めるとともに、ソフト面においても、国際交流拠点としてのさらなる活用と機能強化を図る必要があります。また、平成31年4月から改正出入国管理及び難民認定法等が施行され、新たな在留資格が創設されることに伴い、国は外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策を策定しました。このため、本市においても、外国人との共生社会の実現に向けたさらなる取組が求められています。
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	H28年度:国際交流センターのあり方等で検討された、駐車場の有料化、ホテル・レストランの行政財産の貸付方法の見直しなどを進めました。 H27年度:国際交流センターのあり方等について、庁内の検討会議を立ち上げ、検討を進めています。

評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	市内に在住する外国人市民の数は年々増加しており、国際交流センターを拠点とした国際交流の推進や、多言語による生活相談、日本語講座等の多文化共生のための事業を継続的に実施していく必要があります。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	指定管理者による講座、イベント等も目標どおり実施され、多くの方に参加いただいております、事業の成果は徐々に上がっています。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	国際交流センターは指定管理者により運営されており、民間活用は既に実施されています。また、事業手法の見直しについても、平成29年度から駐車場有料化、ホテル・レストラン定期賃貸借建物契約が既に実施されています。	

<b>施策への貢献度</b>	<b>貢献度区分</b>	<b>上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由</b>
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	<b>B</b>

## 改善 (Action)

<b>今後の事業の方向性</b>	<b>方向性区分</b>	<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b>
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	<b>II</b>
<b>今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所</b>	<b>変更前</b> <small>(次年度計画上の記載)</small>	
	<b>変更後</b> <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>	
	<b>変更の理由</b>	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

<b>事務事業</b>	事務事業コード 40901060	事務事業名 市民文化大使事業				政策体系別計画の記載 有				
<b>担当</b>	組織コード 258000	所属名 市民文化局市民文化振興室								
<b>実施期間</b>	事業開始年度 —	事業終了年度 —	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等) その他	分類2(内部事務) その他					
<b>実施形態</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
<b>実施根拠</b>	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術基本法、川崎市文化芸術振興条例									
<b>総合計画と連携する計画等</b>	スポーツ推進計画,文化芸術振興計画,シティプロモーション戦略プラン									
<b>行財政改革第2期プログラムに関連する課題名</b>	改革項目		課題名							
<b>予決算</b> (単位:千円)	<b>年度</b>	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	<b>事業費 A</b>	1,851	0	2,134	2,077		1,851		2,134	
	<b>財源内訳</b>	国庫支出金	0	—	0	0	0		0	
		市債	0	—	0	0	0		0	
		その他特財	600	—	600	600	600		600	
		一般財源	1,251	—	1,534	1,477	1,251		1,534	
	<b>人件費<sup>*</sup> B</b>	2,118	2,118	0	0	0	0	0	0	
<b>総コスト(A+B)</b>	3,969	2,118	2,134	2,077	0	1,851	0	2,134		
<b>人工(単位:人)</b>	0.25									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

<b>政策体系</b>	<b>政策</b> 戦略的なシティプロモーション <b>施策</b> 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 <b>直接目標</b> 市内外における市の認知度・好感度を高める	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人 川崎市のアピールとイメージアップに貢献していただきます。 川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人を川崎市市民文化大使に認定し、個々の活動や市長の代理としての業務または市の業務などを通じて川崎市のアピールやイメージアップに貢献していただきます。
<b>事業の対象</b> (事業の対象となる人、物)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人	
<b>事業の目的</b> (対象をどのような状態にしたいか)	川崎市のアピールとイメージアップに貢献していただきます。	
<b>事業の内容</b> (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人を川崎市市民文化大使に認定し、個々の活動や市長の代理としての業務または市の業務などを通じて川崎市のアピールやイメージアップに貢献していただきます。	
<b>当該年度の取組内容</b> (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①市民文化大使の活動を通じた本市の魅力のPRやイメージアップ	

## 実施結果 (Do)

<b>上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度</b>	<b>3</b>	1. 目標を大きく上回って達成    4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成    5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
<b>取組内容の実績等</b> (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等より具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①市民文化大使は個々の活動や市の事業への協力により、川崎市の魅力のPRやイメージアップなどに貢献しています。また、市民文化大使と活動に関する意見交換等を実施しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	説明	目標					
		実績					
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、市のPRの必要性やPR等を行う機会が増しており、現状の事業内容を維持しつつも活躍の幅を広げるよう、庁内外を問わずより一層の連携及び情報発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度: 東日本大震災被災者等支援基金を活用した、市民文化大使の被災地での活動に対する補助金の創設など、市民文化大使の活動の幅を広げるための見直しを行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、庁内外で関連した講演会やイベント等、市民文化大使の活動機会も増加しています。今後も、市のPR等を行う機会が増加することが予想されるため、市民文化大使によるPR活動等の必要性も高まっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果が具体的に見える事業ではないため、指標による評価はできませんが、市民文化大使の個々の活動に加え、庁内外の講演やイベント等への参加による市のPR活動を行っているため、徐々に上がっているものと考えます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・当事業は、市民文化大使自身の活動の中で市のPR活動等を行っていただいているものであり、いわゆる業者との委託契約等の関係ではなく、市の負担は小さいため、経費削減の余地はないと考えます。 ・質の向上については、市民文化大使との懇親会や意見交換等の機会を増やし、市民文化大使の活動がより効果的なものになる余地があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	市民文化大使自身の活動のほか、オリンピック・パラリンピックに向けた事業、被災地支援、庁内各部署における事業等に市民文化大使が協力することで、本市の魅力のPRやイメージアップに貢献しています。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	40902010	観光振興事業				有						
担当	組織コード	所属名										
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	その他	その他	その他							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)											
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン, まち・ひと・しごと創生総合戦略, 産業振興プラン, 情報化推進プラン, 文化芸術振興計画, 新・かわさき観光振興プラン											
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	103,341	97,880	99,260	103,582	99,260		96,260			
		国庫支出金	0	-	0	0	0		0		0	
		市債	0	-	0	0	0		0		0	
		その他特財	914	-	913	877	913		913		913	
		一般財源	102,427	-	98,347	102,705	98,347		95,347		95,347	
	人件費* B	47,432	47,432	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)	150,773	145,312	99,260	103,582	0	99,260	0	0	96,260	0	0
	人工(単位:人)	5.6										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市内への集客を推進し地域経済を活性化します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	観光協会、民間企業、近隣自治体等と連携して旅行商品の造成や戦略的な広報に取り組みとともに、本市の観光施策を効果的に実施します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①新・かわさき観光振興プランに基づく施策の展開 ②多彩な観光資源の魅力発信 ③「かわさき きたテラス」における観光案内の提供 ④民泊事業の適正な運営確保 ⑤外国人観光客の誘客促進 ⑥かわさき市民まつりの開催	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①新・かわさき観光振興プランに基づく施策を推進しました。 ②ホームページ内容の充実を行い、工場夜景等の魅力や様々なイベント情報を効果的に発信しました。 ③「かわさき きたテラス」においてお客様のニーズに合わせた多言語による観光案内を提供しました。 ④住宅宿泊事業、いわゆる民泊事業については、届出のタイミングでの全件現地確認など適正な運営を確保しました。 ⑤インフルエンサーの招請や旅行博への出展など誘客促進の取組を実施しました。 ⑥11月2日から4日までかわさき市民祭りを開催しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 成果指標	主要観光施設の年間観光客数	目標	1,696	1,748	1,801	1,856	万人 ('年'表記)
	説明 主要観光施設からの報告値等の集計	実績	1,628	-	-	-	
2 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数	目標	190	193	195	198	万人 ('年'表記)
	説明 市内宿泊施設からの報告値等の集計	実績	195	-	-	-	
3 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】	目標	21	22	22	23	万人 ('年'表記)
	説明 市内主要宿泊施設の外国人宿泊客数の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	実績	26	-	-	-	
4	説明	目標					
		実績					

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2017年(平成29年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は2億69万人で、2016年(平成28年)の1億9,027万人に比べ1,042万人増加し、初めて2億人を突破しました。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度: 宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】の成果指標の数値の見直しを行い、次年度の目標数値に反映しました。 H28年度: 新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H27年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。		

評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国内外の観光に関するニーズは増加する見込みです。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	今後も、新たな宿泊施設が建設予定であり、国内外からの観光、宿泊に対するニーズは増加する見込みです。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を川崎産業観光振興協議会や川崎市観光協会に移行することによりコストの削減が見込まれます。	
施策への貢献度	<b>貢献度区分</b> A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	<b>上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由</b> 外国人誘客事業、ホームページ・ガイドブック等による情報発信等が川崎の魅力向上等に貢献しています。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	<b>方向性区分</b> I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III	<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b> 2020年東京オリンピック・パラリンピックを好機として、外国人観光客の受入環境充実を目指し、キャッシュレス決済の促進や、インフルエンサーを活用した情報発信の拡充に取り組み、インバウンド施策等の事業規模を拡大していきます。
	<b>今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所</b>	<b>変更前</b> (次年度計画上の記載)	
	<b>変更後</b> (上記計画上の記載に対する変更点)		
	<b>変更の理由</b>		

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載				
	40902020	産業観光推進事業				有				
担当	組織コード	所属名								
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	—	—	その他	—	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン,産業振興プラン,文化芸術振興計画,新・かわさき観光振興プラン									
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	10,950	10,950	10,950	13,700		10,950			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0		0		
		その他特財	0	—	0	0		0		
		一般財源	10,950	—	10,950	13,700		10,950		
	人件費※ B	17,787	17,787	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	28,737	28,737	10,950	13,700	0	10,950	0	0	
	人工(単位:人)	2.1								

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市、川崎産業観光振興協議会、川崎市観光協会、川崎商工会議所等が一体となり川崎の産業観光の推進を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市内に多数存在している産業観光施設を効果的に活用し、産業観光ツアーや工場夜景ツアーを推進するとともに、全国各地への教育旅行誘致活動を実施します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①産業観光ツアー等の推進(産業観光ツアーの企画回数:6回以上) ②教育旅行誘致活動の実施 ③着地型旅行商品等の企画・検討 ④川崎工場夜景等のガイドを3名養成 ⑤外国人観光客向けツアー開発・試行及びSNSによる定期的な情報発信の実施等によるインバウンド観光の推進	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等より具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①ミュージアム川崎シンフォニーホールやANA機内食工場など普段入ることのできない産業観光ツアー等を実施しましたが、民間事業者による様々なツアーが造成され、指標に掲げているツアーの競合が増加したため、目標に達することができなかった。 ②四国地方や東北地方など計4回、教育旅行誘致活動を実施しました。 ③民間事業者と連携バスやクルーズ等の工場夜景ツアーを実施するとともに、鉄道事業者等と新たな定期ツアーの検討をしました。 ④川崎工場夜景等のガイドを新たに3名養成しました。 ⑤外国人観光客向けモニターツアーの検討・調整及びSNSによる情報発信の実施等により、インバウンド観光を推進しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 活動指標	産業観光ツアーの実施回数	目標	6	6	6	6	回
	説明 産業観光ツアーの実施回数の集計	実績	7	—	—	—	
2 成果指標	工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数	目標	7,400	7,700	7,900	8,100	人 (「年」表記)
	説明 工場夜景ツアー及び産業観光ツアーの参加者数の集計	実績	5,300	—	—	—	
3		目標					
	説明	実績					
4		目標					
	説明	実績					



## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2017年(平成29年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は2億69万人で、2016年(平成28年)の1億9,027万人に比べ1,042万人の増加し、初めて2億人を突破しました。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度:新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H28年度:新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H27年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国内外の観光に関するニーズは増加する見込みです。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数については、指標の目標値に到達していませんが、工場夜景や産業観光がテレビや新聞等で取り上げられる機会が増えており、工場夜景・産業観光への関心が高まってきています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を川崎産業観光振興協議会や川崎市観光協会に移行することによりコストの削減が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	現在、実施している産業観光ツアーや工場夜景ツアーは、市内外から多くのお客様に利用されているとともに、特に工場夜景は、新聞やテレビなど多くのメディアから注目されており、川崎の魅力向上等に貢献しています。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	40902030	市制記念花火大会事業				有						
担当	組織コード	所属名										
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	イベント等	—								
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)											
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン,文化芸術振興計画,新・かわさき観光振興プラン											
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	81,201	81,173	81,201	81,201			81,201			
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
		市債	0	—	0	0	0		0		0	
		その他特財	0	—	0	0	0		0		0	
		一般財源	81,201	—	81,201	81,201			81,201		81,201	
	人件費 <sup>*</sup> B	8,047	8,047	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	89,248	89,220	81,201	81,201	0	81,201	0	0	81,201	0	0
	人工(単位:人)	0.95										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	主に川崎市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	花火大会を安全に楽しんでもらうとともに、「ふるさと・川崎」の意識を醸成しながら、市内観光産業の活性化を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	花火を楽しんでもらえるよう打上内容等に工夫を凝らすとともに、事故のないよう観客動線の確保や警備を充実させて安全に開催します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①観賞客の安全確保及び継続可能な花火大会の企画の立案・実施(有料協賛席販売数:5,250席以上) ②民間事業者との連携による安全で楽しい大会の運営計画の策定と実施	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①今年度から開催時期が夏から秋へ変更になったことから、警察・消防をはじめ、地域団体や関係事業者等と綿密に協議・調整を行って警備計画を見直し、安全に実施することができました。また、企業・団体等へ積極的な協賛依頼を行い、協賛金は昨年度より100万円以上の増額となりました。有料協賛席チケットの販売数は、花火シーズンである夏から秋へ開催時期が変更になったため、目標を若干下回りました。今後は秋にふさわしい魅力ある花火を企画するなど、販売数増加へ向けた取組を行っていきます。 ②民間事業者と連携し、芸術の秋に相応しいジャズ音楽のステージイベントや、特殊効果を導入した音楽花火を企画・実施しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位	
1	成果指標	有料協賛席チケット販売数	目標	5,250	5,250	5,250	5,250	席
		説明 花火大会当日の会場内有料協賛席チケットの販売数	実績	4,999	—	—	—	
2	説明		目標					
			実績					
3	説明		目標					
			実績					
4	説明		目標					
			実績					

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京会場(左岸側)は再開発の完成によりますます観客が増加傾向にあり、周辺環境保全や安全に最大限留意しつつ、対応を図っていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 30 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H30年度・平成29年度に落雷及びゲリラ豪雨の影響で中止になったことを踏まえ、観客の安全確保を図るため、平成30年度からは秋に開催することとしました。 H27年度：以前は、東京会場上流側緩衝地帯については観客の立ち入りを禁止していましたが、東京会場での観客増に対応するため、保安と周辺住民の住環境保全に留意しつつ、その一部に上野毛B地区有料協賛席を新たに設定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	花火大会に対するニーズは協賛金の増からも明らかです。遊園地等の囲まれた施設や臨海部で純民間による花火の打ち上げはあるものの、オープンな空間での純民間による花火大会は警備や交通規制への課題があり実施が困難な状況があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標である有料協賛席チケットの販売数は目標を若干下回ったものの、協賛金は昨年度より100万円以上の増額となりました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	既に運営主管業務を委託し、協賛席の運営は運営主管が行うことで効果的に収益を得る枠組みで運営しています。事業手法については安全対策費用が増大する中、常に見直しを行い効率的な運営をしています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	効率性の高い事業執行で、市民の期待が高い事業を市が主体となってから40年余開催しており、川崎の特性を活かした観光の推進に貢献しています。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

<b>事務事業</b>	事務事業コード 40902040	事務事業名 競輪場整備事業				政策体系別計画の記載 有				
<b>担当</b>	組織コード 286100	所属名 経済労働局公営事業部総務課								
<b>実施期間</b>	事業開始年度 —	事業終了年度 —	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等) 施設の管理・運営	分類2(内部事務) —					
<b>実施形態</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
<b>実施根拠</b>	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 富士見周辺地区整備基本計画、川崎競輪場再整備基本計画									
<b>総合計画と連携する計画等</b>	産業振興プラン、スポーツ推進計画、新・かわさき観光振興プラン									
<b>行財政改革第2期プログラムに関連する課題名</b>	改革項目 取組2(9)特別会計の健全化		課題名 1 競輪事業特別会計の健全化に向けた取組の推進							
<b>予決算</b> (単位: 千円)	<b>年度</b>	<b>H30年度</b>		<b>R1年度</b>		<b>R2年度</b>		<b>R3年度</b>		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	<b>事業費 A</b>	226,899	501,906	437,901	72,302		288,702		388,702	
	財源内訳									
	国庫支出金	0	-	0	0		0		0	
	市債	0	-	0	0		0		0	
	その他特財	226,899	-	437,901	72,302		288,702		388,702	
一般財源	0	-	0	0		0		0		
<b>人件費* B</b>	11,350	11,350	0	0	0	0	0	0	0	
<b>総コスト(A+B)</b>	238,249	513,256	437,901	72,302	0	288,702	0	388,702	0	
<b>人工(単位: 人)</b>	1.34									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

<b>政策体系</b>	<b>政策</b> 戦略的なシティプロモーション <b>施策</b> 川崎の特性を活かした観光の振興 <b>直接目標</b> 市内への集客及び滞在を増加させる	
<b>事業の対象</b> (事業の対象となる人、物)	競輪場施設	
<b>事業の目的</b> (対象をどのような状態にしたいか)	「公園との一体感を感じられる空間づくり」や「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」をメインコンセプトとした、施設の整備を行います。	
<b>事業の内容</b> (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎競輪場再整備基本計画に基づき、施設の再整備に取り組みます。 既存施設の設備更新工事、維持修繕工事を実施します。 施設整備・維持管理に必要な競輪施設等整備事業基金の積立・取崩を計画的に実施します。	
<b>当該年度の取組内容</b> (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「川崎競輪場再整備基本計画」に基づく施設の再整備の推進 ・入場門棟改築工事及び外構整備工事の実施 ・バンク内広場整備工事の実施 ・メインスタンド3階内装改修基本設計及び実施設計の実施 ②競輪場施設・設備の耐用年数に応じた整備・改修の実施 ・老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事の実施	

## 実施結果 (Do)

<b>上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度</b>	<b>3</b>	1. 目標を大きく上回って達成    4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成    5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
<b>取組内容の実績等</b> (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の再整備の推進については、入場門棟改築工事及び外構整備工事を行い競輪場のコンパクト化を図り、一部敷地を公園に返還しました。また、バンク内広場整備工事、メインスタンド3階内装工事の設計を実施しました。 ②の施設・設備の整備・改修については、老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事を実施しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	説明	目標					
		実績					
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	趣味やレジャーの多様化が進んでいる中で、入場者数が減少傾向にあることから、施設の収容人員や投票所の最適化を図る必要があります。また、基金の範囲内で、再整備基本計画のコンセプトの実現に向けた再整備の推進や安定的な競輪開催に向けた施設の整備・補修を行うため、仕様の見直しや整備方法の検討を行いながら事業を進めることが必要です。
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度:競輪事業特別会計全体の収支を勘案し、基金の範囲内で整備事業を実施できるよう工事の平準化を図りました。

評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	再整備基本計画のメインコンセプトである「公園との一体感を感じられる空間づくり」「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」を行うことにより、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献しています。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	再整備により、お客様の観戦環境の向上を図りました。また、新入場門棟改築や外構工事を完成することで競輪場敷地の公園への一部返還を実施し、競輪場のコンパクト化を実現しました。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	再整備基本計画に基づく整備については、令和5年度まで行うよう平準化を図っており、今後、東サイドスタンドの除却工事等がありますが、基金の範囲内で、効果的・効率的な施設となるよう仕様の見直しや整備方法の検討を行う必要があります。	
施策への貢献度	<b>貢献度区分</b> A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	<b>A</b>	<b>上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由</b> ・競輪場内の投票設備の改修や路面の補修等を実施し、お客様の観戦環境の向上を図りました。 ・「公園との一体感を感じられる空間づくり」の実現に向け、競輪場の新入場門棟改築及び外構工事を完了させ、競輪場敷地の公園への一部返還を実現しました。

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	<b>方向性区分</b> I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	<b>II</b>	<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b> 再整備基本計画のコンセプトの実現に向け、時代の変化に対応しながら、様々な状況を踏まえて、引き続き、基金の範囲内で、効果的・効率的な施設となるよう、関係局や関係者等と調整を図り、着工順や仕様の見直し、整備方法等の検討を行いながら事業を進めていきます。
	<b>今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所</b>		<b>変更前</b> (次年度計画上の記載)
		<b>変更の理由</b>	

# 平成30年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	40902050	競輪等開催・運営事業			有							
担当	組織コード	所属名										
	286300	経済労働局公営事業部業務課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 自転車競技法											
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン・新・かわさき観光振興プラン											
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
	取組2(9)特別会計の健全化			1 競輪事業特別会計の健全化に向けた取組の推進								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	19,495,878	17,554,724	19,495,878	18,246,957	19,495,878		19,495,878			
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0			
		市債	0	—	0	0	0		0			
		その他特財	19,495,878	—	19,495,878	18,246,957	19,495,878		19,495,878			
		一般財源	0	—	0	0	0		0			
	人件費* B	103,842	103,842	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	19,599,720	17,658,566	19,495,878	18,246,957	0	19,495,878	0	0	19,495,878	0	0	
人工(単位:人)	12.26											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	競輪場施設、競輪場来場者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	競輪の効率的な事業運営を推進し、事業の収益性を高めることにより、安定的に一般会計への繰出を行います。競輪の魅力アピールすることで誰もが楽しめる競輪場を目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	平成29年度から導入した包括的な業務委託により、柔軟かつ効果的・効率的な事業運営によるトータルコストの削減、ファンサービスの向上などを通じた来場者数・車券売上上の増進、既存施設の有効活用による収入増、市民利用・多目的利用の一層の推進を図り、競輪事業の効果的・効率的な実施及び市民に親しまれる競輪場の確立を目指します。また、特別競輪の誘致活動を推進します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	① 包括的な業務委託の導入による柔軟かつ効果的・効率的な事業運営 ② 競輪初心者教室やガールズケイリン、観戦ツアー等の開催による新規ファン獲得に向けた取組の推進 ③ 特別競輪の誘致活動の展開 ④ 収益向上を目指した企画レースや協賛レース、ミッドナイトケイリン等の開催による活性化策の推進 ⑤ こども向けイベントや自転車イベント等の開催を通じた、市民に親しまれる競輪場に向けた取組の推進	

## 実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた事業の取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ① 包括的な業務委託により事業の効率化や各種サービス面での充実を図り、効果的な運営を行いました。 ② ガールズ競輪、競輪女子会、外国人向け観戦ツアーの開催などにより競輪場のPR及び新規ファン獲得につなげることができました。 ③ 令和2年度特別競輪開催に向け開催申請資料の提出及び競輪関係団体に対しPR活動を行うとともに、平成29年度に引き続きGⅢをナイターで2回開催し、収益向上を図りました。 ④ 本場開催時の企業・個人協賛レースやミッドナイト競輪の開催、枠外開催の誘致などにより、新規顧客の獲得及び収益の向上につなげることができました。 ⑤ 市民祭りでのおもしろ自転車や多摩川マラソン大会での競輪ブースの出演、アマチュア愛好家のバンク利用のほか、富士通スタジアムと連携したサイクルイベントを実施するなど、市民に親しまれる競輪場に向けた取組を行いました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 成果指標	一般会計への繰出金	目標	2.5	2.5	2.5	2.5	億円
	説明 一般会計への繰出額を増加させるために様々な売上向上策や経費削減策に取り組む必要があります。	実績	2.8	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	趣味やレジャーの多様化が進んでいますが、ミッドナイト競輪等新たな開催形態での競輪実施により、車券売上額は上向いています。 全国競輪施行者協議会の通知等により相談窓口設置等のギャンブル等依存症対策に取り組んでいますが、今後もIR法の法整備などの動向を注視する必要があります。		
<b>事業の見直し・改善内容</b>  具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H <b>29</b> 年度 <input type="checkbox"/> 未実施  H29年度: 全国競輪施行者協議会の通知等により相談窓口設置等様々なギャンブル等依存症対策を実施しました。 H28年度: 包括的な業務委託の導入に向けた準備(仕様書・募集要項等の作成、事業者の公募、選定、契約に向けた調整等)を行い、受託事業者と基本協定を締結いたしました。 H27年度: 民間ノウハウを活用して、安定的な競輪事業の確立や市民に親しまれる競輪場づくりを推進するため、競輪開催業務をはじめとする多数の業務を一括して委託する包括的な業務委託導入の検討を行いました。		
<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	
<b>必要性</b>	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	<b>a</b>
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	<b>a</b>
評価の理由	競輪事業は、都道府県及び総務大臣が指定する市町村のみが実施するものであり、競輪事業の収益は、一般会計に繰り出し、義務教育施設整備事業等に充当されています。		
<b>有効性</b>	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	<b>b</b>
	評価の理由	競輪場施設再整備による施設のコンパクト化、観戦環境の改善等の取組と包括的な業務委託の導入により、一般会計への安定的な繰出を行っています。	
<b>効率性</b>	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>c</b>
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	<b>b</b>
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>b</b>
評価の理由	平成29年度から包括的な業務委託を導入したことにより、効果的・効率的な事業運営を行っていますが、引き続き業務の見直しを行い、改善を図っていきます。		
<b>施策への貢献度</b>	<b>貢献度区分</b>	<b>上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由</b>	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	<b>A</b>	競輪事業は、昭和24年の開設以来、平成29年度までに1,280億円超を一般会計へ繰り出しており、平成30年度も一般会計へ2.8億円繰り出しました。

## 改善 (Action)

<b>今後の事業の方向性</b>	<b>方向性区分</b>	<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b>	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	<b>II</b>	包括的な業務委託について精査を行い、引き続き、事業の効率化や売上向上のための各種施策について改善を行い、これまで以上に「安定的な競輪事業の確立や効率的な運営」と「市民に親しまれる競輪場づくり」を推進していきます。
<b>今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所</b>	<b>変更前</b> <small>(次年度計画上の記載)</small>		
	<b>変更後</b> <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>		
	<b>変更の理由</b>		